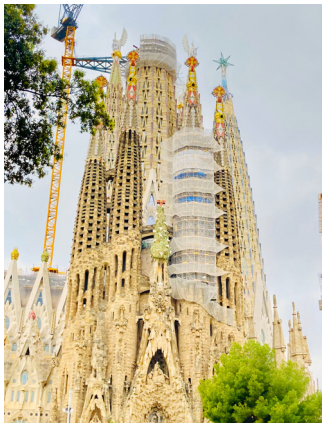
世界遺産アカデミー認定講師 File No.50

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第50回目は、経歴35年にもわたる海外添乗員のかたわら、整理収納アドバイザーとしても各地でご活躍されている、神奈川県在住のWHA認定講師、宮川 明美（みやかわ あけみ）さんです。今回は、地中海クルーズ旅行から帰国直後の宮川さんに、世界遺産を通して考える保全・保護の大切さ、世界遺産で出逢った奇跡のエピソードなどについて、語っていただきました。

――地球上にとっての大切なモノ・コトとは何か

添乗員として訪れた地が次々と登録されるのが嬉しくて、世界遺産に興味を持ちました。1990年代当時はまだ電話回線を利用したダイヤルアップ接続でしたが、「旅の情報発信のホームページ」を開設し、ノートPCを海外へ持参し、現地情報を発信していました。仕事終了後に毎晩、宿泊ホテルの電話用ケーブルに繋いでアクセスし、翌朝、電話代を支払ってチェックアウト。お金を支払ってでも発信したかったほど、世界遺産に夢中でした。掲示板への反応が多いことも喜びでした。今と違い、海外からの生情報がとても少なかったのです。そして、ただ好きな気持ちだけではもったいないと、世界遺産検定の受



2026年完成予定のサグラダ・ファミリア
本取材直後のクルーズ添乗にて

検を決め、本格的に勉強を始めました。それ以前は、TV番組『世界遺産』を毎週録画し観ていたのに、「顕著で普遍的な価値」の意味も知らずにいたような気がします。

プロのツアーコンダクターでも、現地でのライセンスを持っていなければ、直接的な観光ガイドは禁止されています。ですから添乗時はバスでの移動中に世界遺産の登録基準表を配布し、これから訪問する場所の価値や歴史、文化、宗教、生活習慣などをご説明します。多様な魅力をお伝えすると、お客様の観る目も、現地ガイドさんの説明を聴く姿勢も、明らかに変わります。

一方、世界遺産を脅かしているオーバー・ツーリズムは、耳が痛いです。観光業界で30年以上のキャリアを持つ私にとって、世界遺産の意義を伝え、次世代のために大切に守っていく必要があると伝えていくことは、大切な努めです。たとえば、『フィレンツェ歴史地区』のドゥオーモのクーポラの落書きや、イースター島のモアイ像に名前を彫るといった、文化財の破壊に繋がる問題行為を挙げ、立入禁止区域や入場予約が必要な意味、劣化を抑えるために時間や人数の時間や人数の制限を設ける意味をご説明します。自然に関しても、花木の枝を折らない、草木を踏まない、ゴミは自分で持ち帰る、などの話もします。スイスの氷河は、行くたびにどんどん小さくなっています。気候の不安定さや変動は誰もが感じていますし、IUCNのレッドリストは増加の一途です。保全・保護がいかに重要かを実感し、これ以上悪化させない強い意志を持てば、私たちは地球の未来をまだ救えると信じたいです。

ツアーコンダクターは先の見えない仕事です。バブル期は視察旅行や企業研修旅行などでスケジュールが埋まっていましたが、現在は観光旅行がメインです。私自身は8年ほど前からクルーズツアーの専属となりました。添乗の合間を縫って、講師活動を行っています。幸か不幸かコロナ禍が転機となり、本格的な講師活動が始まりました。大和市で「現役添乗員の世界遺産検定マイスターが語る世界遺産」というタイトルで講座を開催し、さらには日本一の図書館として知られる「大和市文化創造拠点シリウス」の方からもオファーをいただきました。相模大野カルチャーセンターの講師も担当しています。受講生も幅広く、ベテラン添乗員仲間も受講してくれました。たくさんの遺産を見聞してきましたので、今後はテーマごとに世界遺産を取り上げながら、多様な角度からお話しする予定です。最近話題の「記憶の場」や「プレリミナリー・アセスメント」、「アップストリーム・プロセス」などの知識のアップデートも必要ですし、講師としてはまだまだ新米ですが、添乗員として、旅の楽しみ方、持ち物、お土産品、注意事項などもお話しますし、飽きない楽しい講座となるように心がけています。チャンスがあれば、検定対策講座や整理収納アドバイザーの視点から「世界遺産とSDG's」を軸にした講座、子どもたちにもお話しできたら、と夢が膨らみます。

――世界遺産で奇跡と出逢う

現在、注目している世界遺産は、この会報誌が刊行される時にクルーズ添乗中の、『グレート・バリア・リーフ』です。2021年に危機遺産リスト入りするか否かの議論となりました。気候変動や水質汚染によるサンゴ礁の白化現象や、サンゴ礁の大敵となるオニヒトデの爆増など由々しき問題を抱えています。大型船のリーフ通行も制限があるそうですが、現在の状況を見てきたいです。同様に、『ヴェネチアとその潟』も心配しています。以前からオーバー・ツーリズムや冬のアクア・アルタ（浸水）などが問題視されています。2019年6月に発生した大型客船と小型観光船の衝突事故を受け、サンマルコ広場を眺めながらアドリア海へ大運河を進むコースは、今や通行禁止です。シリアのパルミラ、イスラエル、ヨルダン、イースター島、スリランカ、アンコール・ワットにも一生忘れない想い出があります。政情不安や破壊行為のために姿が変わっている遺産もあり、残念です。

2017年5月に、ひとりで『サンティアゴ・デ・コンポステーラ』の巡礼路を歩きました。スタート地点は、認定証をいただける「サリア」。初日から山登りのコースで、宿泊地まであと30分と言う所で、右足が激痛で一歩も動かず、蹲（うずくま）りました。他の巡礼者が声をかけてくれ、ありがたさと恥ずかしさで涙が出ました。反省し、同じ目的地へ

つきみ野学習センターの世界遺産講座

向かう人たちを見ながら進むようになりました。右膝は寝返りも打てないほど辛く痛みましたが、人との出逢いに励まされて、歩くのが楽しくなりました。奇跡のようなこともありました。初日の宿泊施設で同じ部屋だった韓国人の女の子と、なんとサンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂で再会したのです。巡礼者のためのミサの最中、煙を噴き上げるボタフメイロの振り子を見上げていた私に気づき、肩を叩いてくれました。2日後、観光バスでフィステーラ岬まで出かけた時にも彼女に会いました。私に気づくと駆け寄り、「膝は大丈夫?」と心配してくれました。涙が溢れ、思わずハグをして、記念写真を撮りました。

知識豊富な先輩方や世界遺産仲間は、日本にいるより海外のどこかにいるほうが長く、友人も少ない私にとって、大切な「心の友」です。また、コロナ禍の時に、保護猫を迎えました。すぐ引き取らないと殺処分になる子でした。絶滅危惧種の話をすると、動物の命も人間次第と……心が痛みます。命を守るための支援もボランティア活動も微力ながら続け、WHA認定講師として、世界遺産の大切さを多くの方々にお伝えしていきたいと思っています。

サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路（スペイン）